

FUNERAL INFORMATION®

葬儀情報紙 11
2020
November

Ceremony Support

“いざ”という時の安心のために～はと倶楽部 会員募集中!!

この情報紙に記載されている内容に関しましては、地域の習慣・風習などにより異なる場合があります

1885年創業の信頼と実績

善光寺の鐘が聴こえる

日野岩葬送会館

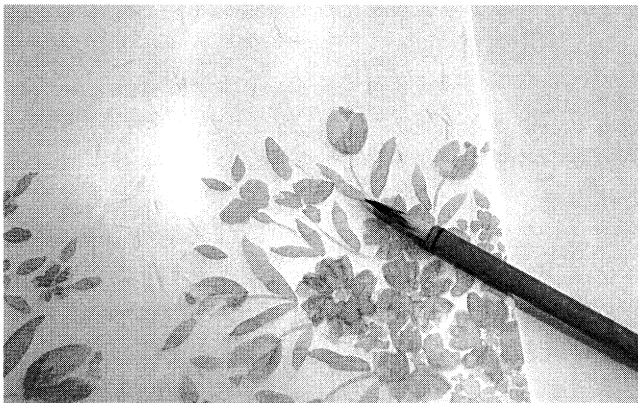
想樹の杜

そうじゆのもり

～葬儀・法事の御相談・御依頼は～

026-232-0012

長野市箱清水2-26-14



いい夫婦の日には—

万葉集には、数多くの「そうもんか相聞歌」が収められています。親しい間柄の親子や友人が親愛の情を伝えた歌もありますが、その多くは男女間で交わされた、例えばこんな愛の歌です。

我が里に大雪降り大原の 古りにし里に降らまくは後

これは、万葉集の巻二にある天武天皇あすかが詠んだ歌で、「私がいる里に大雪が降りました。あなたが住む古い里にも、この後、降ってくるでしょう」という内容です。そして、もうひとつの歌が、この後に続きます。

我が岡のおかみに言ひて降らしめし 雪のくだけしそこに散りけむ

こちらは、ふじわらのぶにん藤原夫人いおえのいらつめ(五百重姫)の歌です。藤原夫人は、大化の改新の中心人物である藤原鎌足ふじわらのかまたりの娘で、天武天皇の後の一人となった女性です。歌の意味は、「私が神様かみさまにお願いして雪を降らせたのです。その雪のかけらが、あなたのいる都に降ったのでしょうか」—。

当時の制度で皇后、妃に次ぐ立場である藤原夫人は、天武天皇と同じ飛鳥浄御原宮あすかのきよみはらのみやに住むことはかなわず、都から離れた大原(現在の奈良県明日香村)に暮らしていたようです。天武天皇は、夫人の身を案じ、「大雪が降ってきたから気をつけて」と歌を贈りました。

対して藤原夫人は、「その大雪は、私の想いが届けたのですよ」と返しました。高い身分の二人が、互いへの愛を率直に伝えている歌はほほえましくもあります。男女の愛に、身分は関係ありません。

11月22日は「いい夫婦の日」。パートナーへの想いを、五七五七七の文字に乗せて伝えてみてはいかがでしょうか？

天武天皇の歌

天武天皇がまだ大海人皇子おほあまのおうじだった頃、ぬかたのおおきみ額田王との間に交わした有名な歌があります。

紫草のほへる妹を憎くあらば
人妻ゆゑにわれ恋ひめやも

ただし、これは宴席で恋を詠ったもので、愛を詠う相聞歌ではなく、「雑歌」に分類されています。

